

令和 7 年度 入学試験問題

選択科目 国語 (2科目入試)

※ 数学の問題は、本冊子の反対側にあります。

注 意

1. 合図があるまで表紙をあけないこと。
2. 解答はHBの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。
3. 解答用紙に解答以外のことを書いた場合、その答案は無効とする。
4. 受験票および願書に記入した1教科を選択し、その解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
5. 受験票は机に出しておくこと。
6. 国語【国語総合（古文、漢文を除く）】は1ページから21ページで、問題番号は1番から42番までとなっている。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一

「自己産出」というのは、要素が要素を創り出すことで一つの全体が創り出されつづける、という考え方だ。というか、そういうあり方を表現する言葉として「自己産出」は生み出された。

^(注1) ルーマンはそれを社会科学に導入したが、生物学の発想をそのまま輸入したわけではない。行政官の業務の一環として「組織とは何か」「どう動くのか」を

考え始め、社会学者になってからも考えつづけた。水平的な協働ができるしくみは、「決定」を要素とみなせば、そのまま自己産出系になる。それをルーマンは「組織システム」と呼んだ。

その軌跡にもウェーバー^(注2)とのつながりを見出すことができる。

② ルーマンの最も初期の論文の一つに「職務の概念と機能」というのがある。一九六一年に書かれ、未発表だったが、組織に関する論文集に収められた。この論文でルーマンは「職務とは何か」を導きの糸にして、組織とは何かに答えようとした。

【1】

「職務」というのは、ウェーバーが官僚制を構成する基本的な要素として取り出したものだ。ウェーバーは職務を「をやれ」という義務としてとらえ、その集まりが官僚制組織だと考えたが、ルーマンは「職務」に別の面を見出した。これは義務であるだけでなく、決定の位置づけ、③ 決定の分業上での「位置（地位）」でもある。「〇〇はこの担当者の職務だ」とは、「〇〇をこの担当者はやらなければならない」だけでなく、「〇〇についてはこの担当者が決める（判断する）」でもある。ウェーバーが義務の集積だと考えた官僚制組織は、実は決定することの集合体でもある。ルーマンはそう考えた。

「職務とは決定前提群からなる構築物であり、それはそれ自体 I で、変動しうる、それゆえ特定の方向に変更可能だと想定されている」職務は決定前提群の再定式化を可能にする。組織では一つの決定が他の決定につながっていく。「職務」が示すのは、そうした決定の連鎖のどこに位置しているかであり、自分を位置づけることで他の決定も位置づける。「管理組織という」システムでは、地位は「接続点」「relay points」あるいは「情報プロセスの単位」としてあらざるをえない。「高い地位は……命令権をあたえられた結果ではなく、多くの機能を、たす装置として見なされる」。

そうした決定を要素としてとらえれば、そこでは、要素としての決定によって要素としての決定が創り出されている。ウェーバーが述べたように、近代的な官僚制組織では規則や目的や地位の権限にもとづいて決定がなされていくが、それらも組織が自ら制定できる。つまり、組織の決定にもとづく。

そういう形で要素が要素を産出することで、組織という全体が構成されていく。すなわち、そういう形で組織というシステムは創り出されつづけている。このようなあり方を適切に表現する言葉をルーマンは探しつづけた。一九七〇年代までは「自己準拠」などの言葉で呼んでいたが、やがてマトウラナ&バレラの「自己産出」に出会って、一九八〇年代半ば以降、これを使いつづける。

そこにたどり着くまで二〇年以上かかったわけだが、「突破」^{フレイクスル}というのは本来そういうものだと思う。そういう意味では、最初から自己産出系を考²えていたともいえる。【2】

だから、本当の「突破」になったのは、「自己産出」という術語ではない。ウェーバーが義務の集積だとした官僚制組織は、実は決定の集合体になっている。むしろそう考えた方が、組織のあり方や動き方をより良くとらえられる。——そういう着想を「職務の概念と機能」という論文に書いた。その瞬間に、新たな一歩が踏み出された。後はそれがどんな一歩なのかを、ルーマン自身が反省的にとらえ直し、理論化していく過程だった。

あえて単純化すれば、ウェーバーとサイモン^{注3}にもとづいて、「合理的組織」は異なる業務の組み合わせで成り立ち、それらに「組織としての決定」という共通の形式をあたえることで、水平的な協働を可能にする——そのようなしくみとして、組織はシステムになっていることを、ルーマンは見出した。【3】
とはいえ、ルーマンはウェーバーとサイモンをただつなげたわけではない。

サイモンは、たんに時間的に前の決定が後の決定の決定前提をあたえるという形で、決定の連鎖を考えていた。ルーマンはそれを受け継ぎながらも、組織の決定では、以前の組織の決定を決定前提として引き継ぐことで「組織の決定」になりうるだけでなく、そのなかで引き継がれた決定前提も再解釈されることに注目した。前の決定が後の決定を方向づけるだけでなく、後の決定がその解釈を通じて前の決定を意味づけ直す。「組織として決めていく」というのは、その両方の働きからなる。そうした形で決定を要素とする全体が成立し、一つの組織を構成する。

こうしたあり方を自己産出系論では「(要素の) 3 回帰的ネットワーク」と呼ぶ。組織における決定を、ルーマンは最初からそのようなものとして考えていた。その意味でもルーマンの自己産出系論は、組織という具体的な現実の考察から生み出された。ウェーバーの官僚制論の不十分さを修正し、参与観察などの経験的なデータとより一致するモデルとして考案されたものだ。現代思想的な、「科学の最先端」や「思想の最先端」とは全く異なる。

歴史的な経過としても、「神の所有物」や「神の身体」のように表象されていた法人が、このような決定のネットワークとして読み換えられていくことで、近代的な組織は成立したと考えられる。^{注4}「コンパニア」の成立も「禁欲倫理」も、むしろその一コマなのかもしれない。ルーマンの組織論とウェーバーの会社論はそういう形で結びつけることもできる。ウェーバーも業務のあり方から、法人会社の起源を説明しようとしたからだ。【4】

実はこの点でもウェーバーはルーマンと重なることを書いている。「行動的禁欲」^{アクティフ・アスケシス}だ。

^{注5}これはプロテスタンティズムの禁欲倫理の強さを表すものだとしてきたが、それぞれの宗教の禁欲の営みに、強弱や徹底さの優劣はつけられない。カトリックの修道院でも、ユダヤ教でも、仏教やジャイナ教や、東アジアの伝統的な宗教でも、真面目な信者の人々は誠実に禁欲に取り組んできた。例えば、肉体に対する規制の強さでいえば、いわゆる東方キリスト教の修道生活の方がはるかに厳しい。信用を重視する営業もやはり世界中にある。【5】
ウェーバーが考えた「プロテスタンティズムの禁欲倫理」の特徴は別のところにある。この禁欲倫理では、誰が本当に救済される人間かが誰にもわからない

い。だとすれば、神から委ねられた事業をどのように営み、どんな生活規制を自分に課すのかも、自分で決めるしかない。他人のやり方を採り入れるとしても、それは自分がそう決めたからだ。誰が救われる。「正しい」のかがわからない以上、全ては自分で選ぶしかない。その正しさは経済的な成功の有無によつて、IIにしか判定できない。

④「行動的」になる。そこでは「この人間は救われる」という神による決定が、その人間による「こうした禁欲を実行しよう」という決定によつて、いわば活アクティヴ化される。神による決定はすでになされている。その意味で時間的に前の決定にあたるが、それを現実化するのは時間的には後になる人間の決定である。この禁欲倫理では、神の決定と人間の決定がそのような関係にある。

裏返せば、自分の事業運営や生活規則が本当に妥当なものかはつねに疑わしい。それゆえ、この禁欲倫理は実践の徹底さに関しては、⑤弱い面もあったのではないか。先人の、優れた求道者がつくってくれた規則を、ひたすら守り抜く——そんな禁欲の方がより強く生活規制を守っていた可能性は十分にあると思う。

そうしたIIIもふくみこんで、この禁欲倫理と「合理的組織」の間には同型性が見出される。変動する環境のなかで、以前の自分の決定、自分が決めた事業運営や生活規則をただ守りつづけるだけではなく、新たな状況を観察し新たな情報を手に入れながら、前の決定による運営の仕方や規則や手続さを再検討し、再調整する。そういう形で、既存の方針や規則を活化しつづける。

そう考えれば、全ての宗教の禁欲倫理を平等にあつかいながら、プロテスタンティズムに固有な特徴をとりだすこともできる。それによつて「合理的な持続的企業」と「合理的な経済エリートii」との間に同型性を見出し、近代資本主義を特徴づける「自由な労働の合理的組織」とのつながりを明確にできる。

(佐藤俊樹『社会学の新地平——ウェーバーからルーマンへ』による)

(注1) ルーマン——ドイツの社会学者。

(注2) ウェーバー——ドイツの社会学者。

(注3) サイモン——アメリカの社会学者。

(注4) コンパニア——ここでは中世イタリアにみられた、近代的な法人会社の起源にあたる事業形態のこと。

(注5) プロテスタンティズム——16世紀の宗教改革後成立したキリスト教の新しい教派であるプロテスタントの思想・神学のこと。

(注6) カトリック——ローマ教皇を最高首長とするキリスト教最大の教派。

* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部1「組織システム」とあるが、ルーマンはこれをどのようなしくみであると考えていたのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **1**。

a 組織システムとは、規則や目的や地位の権限にもとづいてそれぞれの担当者が決定を下しているのに、より合理的で効率的な組織運営ができるしくみであると考えていた。

b 組織システムとは、職務を「しをやれ」という義務が積み重なったものとして捉えるのではなく、自らの意志で判断し決定していく自己産出的なしくみであると考えていた。

c 組織システムとは、命令権を与えられた高い地位にある統括者が、組織全体を大局的に捉えた上で下した決定によって円滑に動いていく官僚的なしくみであると考えていた。

d 組織システムとは、担当者の決定を要素とみなし、その決定によって、別の要素としての決定が創り出されるといふ水平的な協働が行われているしくみであると考えていた。

e 組織システムとは、担当者に権限を与えることによって、自らのやらなければならない職務を創り出し、自らが責任をもってその職務を全うするしくみであると考えていた。

問2 空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つずつ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は

① **2** ② **3** ③ **4** ④ **5** ⑤ **6**。

a むしろ b すなわち c 例えば d もともとは e だからこそ

問3 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **7**。

a 唯物的 b 偶有的 c 蓋然的 d 所与的 e 可塑的

問4 傍線部2「最初から自己産出系を考えていた」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選

なさい。解答番号は 8。

a ルーマンは一九八〇年代半ば以降「自己産出」という言葉を使い続けているが、「自己産出」という言葉が問題ではなく、ウェーバーの考え方を引き継いで組織とは何かを考え続けることに意味があったということ。

b ルーマンは組織というシステムを創り出したことを「自己産出」という言葉で表現することになったが、組織とは何かという社会科学分野の説明に生物学の発想を導入したことが画期的なことであったということ。

c ルーマンがマトウラナとバレラの「自己産出」という言葉そのものに出会ったのは一九八〇年代になってからであるが、組織とは何かを考え始めたときから、この言葉に相当する内容が頭のなかにあったということ。

d ルーマンは要素としての決定によって要素としての決定が創り出されるというウェーバーによる近代的な官僚制組織の説明を、「自己産出」という言葉で一九八〇年代になってはじめて表現したということ。

e ルーマンは行政官の業務の一環として「組織とは何か」を考え始めてから、いつも組織の新しいあり方を創り出そうと、さまざまな分野に知見を広めていて「自己産出」という言葉に出会ったということ。

問5 傍線部3「回帰的ネットワーク」とあるが、これは組織のどのようなあり方なのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選
びなさい。解答番号は **9**。

- a 組織での担当者の義務としての決定が、組織という具体的な現実の考察から生み出されることから、組織を義務の集積体として捉えた組織のあり方。
- b 要素としての決定によつて新たに要素としての決定を創り出していくという、人間以外の生物では考えられない、人間特有の画期的な組織のあり方。
- c 官僚制組織は決定の集合体であるという考え方を単に踏襲しているだけではなく、前の決定が後の決定を方向づけていくことになるとする組織のあり方。

d 現代思想的な考え方と全く異なるものの、たとえ組織とはいっても、担当者の決定がすべての始まりであると考え、現実的で実践的な組織のあり方。

e 時間的に決定の連鎖が起こるだけではなく、前の決定による運営の仕方などを再検討、再解釈することによつて決定がなされるという組織のあり方。

問6 二重傍線部 i、ii のここでの意味として最も適当なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は

i **10**、ii **11**。

i 参与観察

- a その社会がどのように変化するかを長期的に観察する方法
- b その社会を対象化することにより、客観的に観察する方法
- c その社会に入り込み、行動をともしながら観察する方法
- d その社会を俯瞰的に眺めて、大きな視点から観察する方法
- e その社会を一定の固定した地点から定期的に観察する方法

ii エートス

- a 成員間の合意のもとで形成された規則
- b 社会集団に行き渡っている行動の規範
- c 誰もが必ず従わなければならない慣習
- d 共同体を効率的に運営するための制度
- e 昔から存在し人々の拠り所である原理

問7 傍線部4「禁欲倫理」も、むしろその一コマなのかもしれない」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は12。

a 誰が救われるのかは誰にもまったくわからないので、ただ救われることを信じて忠実に生活規則を守っていくしかないという意味で、禁欲倫理も法人会社と同型であるということ。

b 「この人間は救われる」という神の決定を現実化するために、自分が以前に決めた生活規則を自らの手で再調整するという意味で、禁欲倫理も合理的組織と同型であるということ。

c 「この人間は救われる」という神の決定と、どんな生活規制を自分に課すのかという人間の決定とが相互作用しあうという意味で、禁欲倫理も他の宗教と同型であるということ。

d 実践を徹底的に行うことに関しては弱い面を持っているため、自分が本当に救われるかどうかは誰もわからないという意味で、禁欲倫理も「コンパニア」と同型であるということ。

e 他人のやり方を採り入れることを自分で主体的に決定し、それを実行することではじめて神の決定を活化できるという意味で、禁欲倫理も官僚制論と同系であるということ。

問8 次の文は、本文中の【1】～【5】のどこに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は13。

そう言い換えれば、なぜウエーバーが「合理的組織」を形式合理性という視点でとらえようとしたのかも見えてくる。

a 【1】 b 【2】 c 【3】 d 【4】 e 【5】

問9 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は14。

a 相対的かつ個人的 b 事後的かつ部分的 c 合理的かつ科学的
d 顕在的かつ大局的 e 効率的かつ功利的

問10 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **15**。

- a 曖昧さゆえの弱さ
- b 自由度ゆえの弱さ
- c 世俗化ゆえの疑惑
- d 厳守性ゆえの可能性
- e 絶対感ゆえの可能性

問11 本文の内容と一致するものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **16**。

- a 組織では一つの決定が他の決定につながっていくが、前の決定を解釈し直し、特定の方角に変更することが可能なので、担当者は職務を義務として捉えることなく、自らの判断で自由に主体的にやりたいことをすればよい。
- b 経験的な事態を観察するなかで、「何か」を見つけ出し、少しずつ言葉にすることが、社会学者としての重要な資質であることから考えると、ルーマンよりもウェーバーの方が優れた社会学者であるということができる。
- c ウェーバーは敬虔なプロテスタントであったために、近代的な官僚制組織を「プロテスタンティズムの禁欲倫理」になぞらえて分析したが、ルーマンは、社会学的観点から組織を論理的に分析することで、システム化した。
- d プロテスタンティズムの禁欲倫理はカトリックの修道院などの禁欲倫理よりも強いもので、資本主義を生み出す要因だとウェーバーは考えたが、ルーマンはそれを「行動的禁欲」と捉え直し、近代資本主義を特徴づけた。
- e 水平的な協働を実現することができると決定のネットワークをルーマンは、自己産出系という形で理論化していくことになったが、このことによって、ウェーバーの官僚制論が持っていた不十分さを修正することになった。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

〔注1〕
 スペンサーの思想が影響を及ぼした分野は、社会、政治、経済、教育、心理、倫理から生物学に至るまで広範にわたるために、その全貌を理解するのは容易でない。

スペンサーが提唱した社会進化論は19世紀後半、大きな人気を博したが、20世紀になるとともに強い批判を浴びて凋落し、顧みられなくなった。従来、スペンサーの進化論は特に次のような理由から批判される場合が多かった。まず、適者生存を人間社会に適用して進化を論じ、弱肉強食型の社会にしたこと、そして進化的な優劣による人種差別や植民地主義を正当化したことだ。

例えば大手教科書会社が発行する2022年度の高教科書・倫理では、こう解説されている。〔彼(ダーウィン)は、〔種の起源〕において生物は(中略)進化の要因は環境に適応したものが生き残るという自然選択にあると主張した。時を同じくして生物進化論の考えを抱いたスペンサーは、これを社会にも適用し、社会も生物のような有機体として進化すると説いた。社会は適者生存のメカニズムによって、個々人をふるいにかけつつ、よりよい共同の状態へひとりでに進むというのである〕。

社会ダーウィニズムといえば、真つ先にスペンサー進化論が浮かぶのが通例だ。人を適者生存のふるいにかけてつつ進化する生命体。そんな社会を唱えたスペンサーは、冷酷、無慈悲な帝国主義者——そう考える人がいるかもしれない。

だがさて、果たしてそうだろうか。

社会で受け入れられているダーウィンの思想とされるものが、必ずしもダーウィンの思想と一致しているとは限らないように、スペンサーの社会進化論とされるものが、スペンサーの思想と同じだとは限らない。

社会ダーウィニズムの代表格とされているにもかかわらず、実はスペンサーの進化論は、ダーウィン本来の進化論とはほとんど関係がない。のちに適者生存の名で取り入れた自然選択(の一部)は、あまり重要視していない。その代わり、スペンサーが創造的な役割を与えたのは、ラマルクの獲得形質の遺伝だった。環境に合わせて向上心や努力の結果獲得した性質や、社会の中で行う活動や習慣によって後天的に得られた性質が、次の世代に遺伝する、と考えたのである。

スペンサーはこう述べている。

「人間では I が生き残る原因になる場合が多いので、ほかの条件が同じなら、体格、力、賢さなどの優れた属性は、増殖力の低下を犠牲にして成り立っている。一方こうした高度な属性が不要な種では、その属性が低下しても、それに伴う増殖力の増加によって利益を得るのである(中略) こうした(高

度な属性が不要な) 場合、より優れた者は生存しないが、(より劣った者を排除する) 適者生存なら作用する」

適者生存に創造的な力は乏しいうえに、それが作用するのは主に植物など、あまり「進歩」していない段階の生物に限られると見なしていた。人間の進化に適者生存(自然選択)は関係しないと考えていたのだ。

スペンサーは教育上、最も価値を持つ知識は科学的知識だと述べるなど、徹底した自然主義の立場をとったが、スペンサー研究で知られるマイケル・ティラーによれば、スペンサーの思想基盤は進化理論であったという。彼の父は熱心な進化理論者であり、またスペンサーもそのグループのメンバーであった。それを裏付けるように著書の中で、「人間の幸福は神の意志である」¹「本物の宗教と科学は敵対しない、科学と敵対しているのは宗教の名を借りた迷信である」と述べている。

スペンサーにとって自然法則は神の摂理だったのである。自然も人間も社会も、あらゆるものが自然の一般法則に従い、最初は単純で均質な状態から始まり、それが発達して、複雑で不均質、かつ秩序ある多様性に至る、と考えていた。スペンサーはこう記している。「今日のそれぞれの出来事がそうであるように、最初から、あらゆる拡大した力がいくつかの力に分解され、より高い複雑さを恒常的に生み出す。そうしてもたらされた異質性の増大は今も続いており、これからも続いていくはずである。このように進歩は偶然ではなく、人間がコントロールできるものではなく、有益な必然であることがわかるだろう」。

スペンサーはこれを宇宙のすべての現象について、神の摂理——自然法則という形で科学的に説明しようとしたのである。スペンサーにとって、その自然法則がエヴォリューションの法則であった。無機的なものから有機的なもの、さらには心や社会的なものまで、宇宙を支配する法則を徹底的に説明することと、これらの現象が不可避免的に進歩することを明らかにしようとしたのだ²。このエヴォリューションの最後に実現するのが人々の幸福が最大化した理想的な状態であり、それがスペンサーの考える社会の最終形態であった。

従ってスペンサーは、ダーウィンの革新的な考えを取り入れた新時代の思想家ではない。つまり適者生存を人間社会に適用して進化を論じ、弱肉強食型の社会を創ろうとしたわけではない。その進化論は、獲得形質の遺伝や進化理論などで代表される、伝統的なエヴォリューションの観点から導かれたものである。スペンサーは、ダーウィン以前の進化観に基づいて、壮大なスケールで思想を展開した、最後の古典的進化思想家だったのである。

スペンサーは『社会学原理』(1885年)で、生物個体と社会との類似点を指摘し、いずれも時間とともに複雑さと不均質さの増大という同じ法則に支配された現象である、と示そうとした。文明も自然の一部であり、その変化はエヴォリューションの法則から生じるというのである。

スペンサーの考える社会進化の仕組みはこうだ。

新しい社会の中で個人は、社会を創るのに必要なよい習慣を身に付け、悪い習慣が排除される。それぞれの世代の各個人の義務は、必要な資質を後世に伝えるために努力し、「適応力」を最大化することだ。その世代で獲得された資質が代々遺伝し、蓄積していくことによって社会と個人は、徐々に完成へと向

かうである。スペンサーは社会を一個の生物のような有機体と見なしており、進化（進歩）した社会で育った個人は、優れた性質を獲得して、それを次世代に II な性質として与えると考えた。

ただし、スペンサーの考える社会有機体は、脳だけが感情を持つ個体とは異なり、統一意識を持たず、逆に各構成員だけが感情と幸福感を持つ。スペンサーはこう記している。「社会はその構成員の利益のために存在するのであって、構成員が社会の利益のために存在するのではない」。

X

このプロセスに対するいかなる介入も、社会の完成を遅らせてしまう。だから社会に対して政府が取るべき最善の政策は、自由放任主義である。スペンサーによれば、国家は教育、保健、衛生、郵便、貨幣経済と銀行、住宅事情、貧困の解消といった分野に関与すべきではない。国家の関与は、個人の権利の保護と敵国への防衛に限定されるべきである。ただしスペンサーは民間の私人による福祉活動は支持していた。こうしたスペンサー社会進化論のコンセプトは、ヴィクトリア期英国社会に広まっていた進歩史観、古典的自由主義に合致していた。またスペンサーが重視した獲得形質の遺伝は、自助努力と自己啓発、勤勉性と自発性を重視するプロテスタントの労働倫理と調和的であった。

徹底した自由と個人主義を重視するスペンサーは、「いかなる個人も、他者の平等な自由を侵害しない限り、意図することをすべて行う自由を持つ」(1851年)と記し、他者の自由を侵害しない限り、各人のあらゆる自由を尊重しようとする、現代のリバタリアニズムの源流とされる。^(注4)

スペンサーは競争の意義を否定しなかったが、それは競争が個人の向上心を刺激するからである。競争を通じた個人の努力と切磋琢磨^{せつさくさくま}が、資質の向上と社会全体の利益をもたらすのである。互いの競争で得られた資質の向上は次世代に遺伝するので、互いの利益になり、社会を発展させ、最後に平和的な共存を生むと考えたのだ。従ってスペンサーの考える競争は、甲 ではない。彼の想定する「進化した社会と人間」とは、協調的で利他性を重んじる社会とそれに適合した者の意味だった。その進歩のプロセスは、各人の努力によって未来に全員が最大の幸福を享受する理想的な社会が実現するという、楽天的な、ある意味ユートピア思想に基づくものだったのである。しかし、そのプロセスは、こうした実際の想定と無関係に、乙 、の言葉で呼ばれるようになったため、誤解されていつしかマルサスの生存闘争の意味に捉えられるようになったのだと思われる。^(注5)

スペンサーはエヴォリューションの法則に基づき、独裁的な軍事型社会から自由主義の産業型社会へと直線的に発展すると考え、英国と米国を、最も自由主義的な進歩した社会と見なしていた。社会や国家をその構成員の進化レベルと合わせて、原始的なレベルから発展したレベルまで、序列化したのである。その意味では、⁴ 彼の思想は差別的であった。

しかし、決して植民地主義を支持してはいなかった。スペンサーは、次のように述べている。

「我が国の植民の歴史は、その地の先住者に与えた不正と残虐行為に満ちている（中略）、東インド諸島の住民の悲惨な状況は、国家による植民の非人道性

を雄弁に物語っている」

スペンサー自身が人種差別による搾取や植民地主義を正当化したという事実はないのである。

Ⅲ、その自然法則による社会の直線的発展の説明は、拡大する大英帝国の植民地支配を擁護するうえで有効であった。そのため、スペンサーの思想は、英国を始め欧州列強により、植民地主義の正当化に利用されてしまった。

(千葉聡『ダーウィンの呪い』による)

(注1) スペンサー——イギリスの哲学者、社会学者。

(注2) ダーウィン——イギリスの生物学者。

(注3) ラマルク——フランスの博物学者。

(注4) リバタリアニズム——個人の自由を何よりも大事にするという思想。

(注5) マルサス——イギリスの経済学者。『人口論』において、人口と食料の不均衡は必然不可避であり、飢饉^{ききん}、貧困などは一種の自然現象であって、社会制度の欠陥によるものではないと論じた。

* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 二重傍線部 i、ii のここでの意味として最も適当なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は i - 17、ii - 18。

i ふるいにかけつつ

a 沢山の者が生き残りをかけて戦いを繰り広げつつ b 一人で生きていくのではなく、多くの人が協力しつつ

c 多くの中から条件にかなったものを選び出しつつ d 強い者と弱い者が区別されることなく、生を営みつつ

e 自らにふさわしい場所を探したり作ったりしつつ

ii 無慈悲

a 狡猾に立ち回ろうとすること b 憐憫の情をほどこさないこと

c 慇懃にふるまおうとすること d 忖度することが一切ないこと

e 惘然たる表情になること

問2 傍線部1「スペンサーの思想」とあるが、スペンサーはどのように考えたのか。その説明として最も適当なものを、次の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は 19。

19。

a 環境に適応したものが生き残るという、ダーウィンが『種の起源』において説いた適者生存のメカニズムにより人間社会はより良い状態へと生物のように日々進化していくとスペンサーは考えた。

b 劣った属性を持つ人間は淘汰されていくが、体格、力、賢さなど優れた属性を持った人間は生き残り続け、社会が進化していくと、冷酷、無慈悲な帝国主義者であったスペンサーは考えた。

c ダーウィンの進化論に留まることなく幅広い科学知識を用いて、人間は自らの力で進化していくと、社会、政治、経済、教育、心理、倫理から生物学まで視野に入れていたスペンサーは考えた。

d 進歩していない生物に働く自然選択が人間には作用せず、新しい社会の中で個人が社会にとって必要な習慣を身につけ、それが次の世代に遺伝し、社会は進化していくとスペンサーは考えた。

e 環境に合わせて向上心を持ち、努力の結果優れた性質を獲得することができた人間のみが子孫を増やすという弱肉強食の世界を作り上げることによって社会は進化していくとスペンサーは考えた。

問3 空欄Ⅰを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- a 道徳心 b 劣等感 c 競争心 d 洞察力 e 厭世観^{えんせい}

問4 傍線部2「人々の幸福が最大化した理想的な状態」とあるが、これはどうすることによってもたらされるとスペンサーは考えたのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- a この世は神の意志に導かれており、その意志つまり自然法則に従い、時間とともに複雑さと不均質さを増大させることによって。
b 自然も人間も社会もすべて進化理神論に基づいており、人間が自ら制御することができず、神の思し召しを受けることによって。
c 無機的なものから有機的なもので、さらには心や社会的なもので、すべてを科学的知識ではなく、神の摂理に帰すことによって。
d ダーウィンの進化論に基づいて壮大に展開されたエヴォリューションにより、より高い複雑さを恒常的に生み出すことによって。
e 科学と敵対している宗教によってではなく、科学的知識に裏付けされた、ラマルクのな獲得形質の遺伝法則に基づくことによって。

問5 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- a 蓋然的 b 画期的 c 実存的 d 絶対的 e 生得的

問6

X

は23。

に入る、次のア～オの五つの文を正しく並べたものとして、最も適当なものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号

ア この理想的な個人は、道徳的な聖人であり、本能的な利他主義で行動し、他者に喜びを与えるために行動し、そのプロセスから喜びを得るのである。
 イ 自然の法則は神の摂理なのだから、これは当然である。
 ウ 完成された社会では、個人は本能的に他人の権利を尊重し、苦痛を与えるような行動はとらない。
 エ สเปนサーにとって、自然の法則は道徳的であり、自然そのものも道徳的なのである。
 オ この過程は、人間の支配を超えた自然の法則によつてのみもたらされる。

- | | | | | | |
|---|-----------|---|-----------|---|-----------|
| a | ウ→ア→オ→エ→イ | b | ウ→ア→イ→エ→オ | c | ウ→エ→イ→ア→オ |
| d | エ→イ→ウ→オ→ア | e | エ→オ→ア→ウ→イ | | |

問7 傍線部3「自由放任主義」とあるが、国家はこのような主義のもと政策を行うべきだとなぜスペンサーは考えるのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **24**。

a 自然の法則は神の摂理であり、道徳的なもので、その法則に従うことが最善の政策であり、競争することが本能である人間が介入することで理想が実現できなくなるから。

b 国家は教育、保険、衛生、郵便、貨幣経済と銀行、住宅事情、貧困の解消といった分野には介入することなく、それらはすべて民間人に任せられた方が効率的であるから。

c 社会はその構成員の利益のために存在するのであって、社会自身の存続や拡大などに注力すべきではなく、社会の規模はできるだけ小さく、機能も限定したほうが良いから。

d 利他主義で行動する個人から成り立ち、そのような各人の努力によって理想的な状態が実現する社会では、国家は個人の権利の保護と敵国への防衛だけ行えばよいから。

e ヴィクトリア期の英国に広まっていた進歩史観や古典的自由主義に従えば、個人はいかなる制限もなく自らの考えに基づき自由に行動するように神に定められていたから。

問8 空欄甲・乙を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **25**。

a 甲 自然法則 乙 適者生存

b 甲 自然法則 乙 自然法則

c 甲 適者生存 乙 自然法則

d 甲 適者生存 乙 適者生存

e 甲 神の摂理 乙 適者生存

問9 傍線部4「彼の思想は差別的であった」とあるが、このように言われるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **26**。

a 適者生存の法則に基づき、独裁的な軍事型社会から自由主義の産業社会へと発展していく社会や国家においては、すべて一様なものにはならないと考えたから。

b 最も自由主義的な進歩を遂げている社会である英国や米国は、その他の国とは進化のレベルが段違いに異なり、ユートピアが実現していると考えたから。

c 自然の一般法則に基づき協調的で利他性を重んじる状態へと変化していく過程で、社会や国家において発展段階により序列がついていくと考えたから。

d 社会を構成している個人同士が向上心を刺激しあい、競争を繰り広げたことの結果として、マルサスの生存闘争に勝った国家が権力を握ると考えたから。

e エヴォリューションの法則に基づき発展レベルに到達した社会や国家が、いまだ原始レベルにいる社会や国家を支配することは当然であると考えたから。

問10 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **27**。

a 幸いなことに b 大所高所から言えば c うがった言い方をすれば d 皮肉なことに e 蛇足を加えると

問11

次の①～⑤のうち、筆者の考え方にあてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は ① | 28、② | 29、③ | 30、④ | 31、⑤ | 32。

① ヴィクトリア期の英国社会に広まっていた進歩史観や古典的自由主義と、獲得形質の遺伝を重視していたスペンサーの思想は通底するところがあったことから、スペンサーは英国の帝国主義を積極的に支援することになった。

② 教育上、最も価値を持つ知識は科学的知識であると、スペンサーは自然主義の立場をとっており、また、スペンサーは徹底した自由と個人主義を重視しており、現代リベタリアニズムに通じる考え方を持っていた。

③ 熱心な進化理神論者だった祖父から影響を受けたスペンサーも自らの思想基盤を進化理神論においていたため、人間が自助努力や自己啓発などを行うのではなく、神の導きに従い、よりよい社会を作るべきだと考えていた。

④ スペンサーの進化論は、適者生存を人間社会に適用し、進化的な優劣による植民地主義を正当化するものと批判されたが、スペンサー自身はそのような考え方をしておらず、植民の非人道性についても述べていたことがある。

⑤ 社会ダーウィニズムの代表格とされるのがスペンサーの進化論であるが、社会ダーウィニズムはダーウィンの考えではなく、スペンサーが提唱したものである。スペンサーの進化論はダーウィンの進化論とは全く関係がない。

問1 次の漢字の画数として正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **33**。

〔興〕

- a 十三画 b 十四画 c 十五画 d 十六画 e 十七画

問2 熟語の表記が三つとも正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **34**。

- a 講釈―腐心―丹整
b 渴望―弊害―暫次
c 脈絡―癒悦―森閑
d 連綿―余念―証左
e 悠弁―一隅―不穩

問3 次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **35**。
注意をカンキする。

- a カンベンな方法を選ぶ。
b 証人をカンモンする。
c アツカンの演技であった。
d 月から地球にキカンした。
e ゴカン性のある部品。

問4 次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 36。

生殺□奪 — □言隻語 — 同□異曲 — 正□防衛 — 流言□語

a 与 — 片 — 工 — 当 — 飛

b 予 — 偏 — 口 — 統 — 非

c 与 — 片 — 口 — 統 — 非

d 予 — 片 — 工 — 当 — 非

e 与 — 偏 — 工 — 統 — 飛

問5 傍線部のことわざ・慣用句の使い方が正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 37。

a 道が混んでいると思うと、出かけることに二の足を踏んでしまう。

b あなただけの胸に納めて、決して口外しないでください。

c 僕の実験の成果なんて、九牛の一毛に過ぎないよ。

d コンビニエンスストアの前で、高校生たちがとぐろを巻いていた。

e 講演を依頼すると、にべもなくにこやかに承諾してくれた。

問6 ことわざ・慣用句とその意味の組み合わせとして正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 38。

a 張り子の虎 — 見かけは強そうだが、実は弱い人。

b 枯れ木も山の賑わい — つまらないものでも、ないよりはあったほうが良い。

c 不興を買う — 何の面白みもないため、だれからも関心を持ってもらえない。

d 歯牙にもかけない — 無視して問題にしない。

e 捨て石になる — 将来役に立つことを見越して、一見無駄に見えるようなことをする。

問7 次の五つの熟語の対義語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **39**。

「実物」「優雅」「雄飛」「貧弱」「老練」

- 1 冗長 2 没落 3 粗野 4 巧拙 5 雌伏 6 模型 7 立派 8 虚言 9 幼稚 10 頓狂

a 1、2、6、7、9

b 1、4、5、8、9

c 2、3、6、7、10

d 3、4、5、8、10

e 3、5、6、7、9

問8 次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **40**。

「トラウマ」

- a 物質的損壊 b 精神的外傷 c 道徳的崩壊 d 地域的紛争 e 身体的不調

問9 菊池寛の著作を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **41**。

- a 村の家 b 日輪 c 恩讐の彼方に おんしゅう かなた d 天平の甍 いらか e 蒲団 ふとん

問10 戯作の「勧善懲悪」を否定し、写実主義を提唱した作家で、『小説神髓』や『当世書生気質』などを書いたのは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **42**。

- a 樋口一葉 b 二葉亭四迷 c 国木田独步 d 幸田露伴 e 坪内逍遙 しょうよう